

ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他()		
	単元(題材)名	朝の会		
	単元(題材)の目標	朝の会の司会進行を行ったり、聞いたりして一日のながれに見通しをもつ。		
学習集団と実	学部・学年・人数	小学	部	2, 5, 6 年 3 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元(題材)における主な実態を端的に記入する。 知的障害、肢体不自由。対象児童は言語でのコミュニケーションが難しい重度重複障害である。主に左手を上下させてスイッチや iPad の操作を行っている。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器(入出力支援装置等)名を記入する。 iPad		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 DropTalk	アプリマーク 	
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援(<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援(<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)		
	ICT活用のねらい	障がいのため口話ができないので、その代替手段として活用した。日常的に自分から意思を表出することはなく、表情や発声、手の動き、視線などの様子(サイン)をシグナルと見なすようにしている。まずはコミュニケーションの具体的手段を用意し、日々活用することで徐々に音声言語によるコミュニケーションの芽生えを期待したい。		
活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 朝の会の司会進行の際、対象児童が押しやすい場所にタブレット端末を設置した。表示されるイラストを見て、タップするように言葉を掛けたり動きを示したりした。調子のよいときは自分で押すことがある。自分から押さないときは支援者が手を取って一緒に押した。他の児童が、対象児童が操作しているのを見て、司会進行を自分の意思で行っていると認めて返事や発表などを行っている。 継続して行ったり、他の場面でもタブレット端末を使って挨拶や発表を行ったりすることで、コミュニケーションの基礎となる意欲を育てたい。タブレット端末を操作することがコミュニケーションになり、周囲の人との関係を深めることの理解を促し、学校生活場面での意欲を育てていきたい。 対象児童の変化としては、興味のある方向や人の動きを目で追うことが増えてきた。また、車椅子で移動中に玄関や教室のドアを目で追っている様子が見られた。興味を持っている様子が明確になってきていると感じる。			